

# わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(11月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



## 『あすは きっと』

ドリス・シュワーリン 文 / カレン・ガンダーシーマー 絵 /  
木島 始 / 岩崎書店 対象：幼児から



内容のご紹介

今年の夏の甲子園大会で、仙台育英高校が東北勢で初めて優勝しました。

監督の須江さんがミーティングで、この絵本を読み聞かせて、選手たちとコミュニケーションをとっていたとは、驚きました。

野球の技術や作戦だけでは、選手たちをまとめることは出来ません。心にあるやさしさを引き出し、夢を求めたと思います。

“あすは きっと”の絵本は作者のドリスが孫のために書かれたもので、未来思考を大切にしています。

明日は、誰にでも訪れます。

あすは ずっと きょうより よくなるよと

コロナ禍の社会の中で、不安な日々を過ごしていますが、必ず正常な社会に戻る日が来ます。

子ども達にも 頑張ってもらいたいと思っています。

「目をさまして「おはよう！」っていうと、もう そのときが、あす。」「あすは いっぱいできるよ、きょう できなかったことも。」と、希望をまっすぐに語ります。どんなに小さい子どもでも、日々、さまざまな感情を抱いています。よい感情の一方で、うまくいかなかったこと、不安な気持ちもなんとなしに感じていることでしょう。そんな子どもたちに、励ましやエールを届けておきたいですね。

(童話出版紹介文 / 矢祭もったいない図書館)